

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
社会福祉 I	<p>現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。</p>
児童家庭福祉	<p>現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、児童家庭福祉と保育、児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し、児童家庭福祉の現状を把握し、その課題について考察する。</p>
初年次演習 I	<p>大学で学び始める人たちが、①学ぶ空間であるキャンパスに早く慣れ、②大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、③4年間の見通しを持って専門教育を受ける準備ができるようになること、また、充実した学生生活を自分自身で設計できるようになることを目指す。</p>
初年次演習 II	<p>I 期に引き続き、大学生として学ぶための基礎的な能力を身につける。1年次の演習は、原則学生全員が一か所に集まり、お互いをよく知り、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力を養う事を目指す。大学生活を楽しくかつ有意義なものにする始まりの1年であることを自覚する。</p>
人間福祉論	<p>保育士資格を有するものとして必要な社会福祉の専門知識を中心に、人間福祉とは何かを学び、子どもの生活と家族を支援する基本を理解する。さらに、人間への理解を深め、人間観を培い、人間福祉理念を構築し、人への支援力を涵養する。</p>
保育原理 I	<p>今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言える。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていく。</p>

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
教育原理	<p>人間が成長発達する過程には、必ず「教育」の営みが介在していると言える。この、「教育」という人間の営みについて、できるだけ多角的な観点から理解を深めるようにする。とくに、教育の本質、目的、方法について、教育の歴史と現在の取組みについて概観し、今日の教育とこれからの教育を考える機会になるように努めたい。</p>
こどもの心理学 I	<p>人間の生涯にわたる発達過程の理解を目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。また、発達のつまずきについて理解することも目標とする。</p>
こどもと環境	<p>保育における「環境」とは、日常的に用いられる自然環境だけでなく、ある事物が幼児の遊びや学びにどのような意味をもち、幼児がそれらを体験することにより、何に気づき経験していくかという視点から幅広い領域を意味する。そのなかで幼児が環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、具体的に考えていく実践力を身につける。</p>
こどもと音楽 I	<p>幼児教育者を志す者として、基礎技能であるピアノ(鍵盤楽器)の修得は最も重要である。初学者・経験者それぞれの進度に合わせた個人レッスンを行うことにより、基礎から現場で使用されている曲まで幅広く修得する。</p>
こどもと造形 I	<p>保育現場での造形遊び(お絵描き遊び)で生かせる基礎(描写、色彩、色彩構成)や道具の扱い方を学ぶ。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を自由に使い好きなように表現する。材料や道具に十分馴染むことで子供たちは、自然に想像や空間をひろげ、それを絵や工作に表していく。まずは、小さな思いをコンセプトに制作をおこなう。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案する。</p>
こどもと運動 I	<p>乳幼児期から少年期にかけて、人間は生涯のうちで最も著しい発達を遂げる。その発育発達期の子ども達により良い運動やスポーツの環境を提供し、健康増進の基礎づくりやスポーツ活動の活性化を促すのは大人の役割である。本授業では、ジュニア期のスポーツ活動を例に指導者が獲得すべき発育・発達の知識やそれに伴う運動指導の方法等を学ぶことを目的とする。</p>

◇こども福祉学科 主要科目の特長

科目	特長
こども文化論 I	こども文化とは、子どもが「あてがい文化」「おもねる文化」から脱出し、個性を伸ばすとともに、文化を享受し創造する能力を身につけ、新しい時代に的確に対応して自己確立できるように、子どもの価値志向を伸ばすこと等を考えられるところに重点を置く。その理解に必要な保育者としての感性と創造性を養う。